

平成 27 年度病害虫発生予察 特殊報第 4 号

平成 27 年 8 月 21 日
大分県農林水産研究指導センター
農 業 研 究 部

- 1 病 害 名 トマト茎えそ病（仮称）
- 2 病原ウイルス キク茎えそウイルス *Chrysanthemum stem necrosis virus*（CSNV）
- 3 発 生 作 物 トマト

4 発 生 経 過

平成 27 年 7 月に県内の夏秋トマト栽培圃場で、下葉においてスポット的に退緑、黄化症状を呈する株が発生した。

当センターにおいて RT-PCR 法により遺伝子診断を行ったところ、キク茎えそウイルス *Chrysanthemum stem necrosis virus*（CSNV）が検出されたことから、トマト茎えそ病（仮称）と同定した。

5 県内の発生状況

- 1) 初確認年月日：平成 27 年 7 月
- 2) 発生確認地域：大分県西部
- 3) 発生確認株：2 株

6 病徴及び伝染方法

1) 病徴等

- (1) 本ウイルスに感染すると葉に退緑、えそ斑点、黄化症状を生じる（写真 1）。また、茎にえそ症状を生じることがある。
- (2) 生育初期に感染した場合、えそ症状が激しく、枯死することがある。
- (3) 生育後期に感染すると上位葉、中位葉の茎葉に黄化えそを生じる。茎頂部では激しいえそ症状、萎縮、褐変を生じる。
- (4) 果実では褐色えそ斑点やえそ輪紋を生じる。

2) 伝染方法等

本ウイルスはミカンキイロアザミウマによって媒介される（写真 2）。1 齢幼虫が罹病植物を吸汁することで本ウイルスを獲得し、永続的に伝搬するが、経卵伝染はしない。種子伝染および土壌伝染は確認されていない。また、一般管理による汁液伝染は報告されていない。

7 国内での発生状況

本ウイルスによる病害は、キク、アスター、トルコギキョウ、トマト、ピーマンで発生が確認されている。トマトでは、高知県や京都府など10都府県で発生が確認されているが、本県での発生は初めてである。

8 防除対策

- 1) 発病株は抜き取り、ほ場外に持ち出して焼却または埋没処理する。ほ場周辺に放置すると二次伝染源となるので速やかに処理する。
- 2) 施設では開口部を防虫ネットで被覆し、ミカンキイロアザミウマの侵入を防ぐ。防虫ネットは0.8mm目合い以下が望ましい。
- 3) 施設内および周辺の雑草はミカンキイロアザミウマの増殖源となるため、除草を徹底する。また施設内に観賞用花き類等を植えない。
- 4) 青色または黄色の粘着トラップを設置して、ミカンキイロアザミウマの早期発見に努める。
- 5) ミカンキイロアザミウマの薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を心掛ける。使用薬剤は大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。
(ホームページアドレス <http://www.jpnp.ne.jp/oita>)
- 6) 栽培終了後は、施設を密閉して蒸し込み、保毒虫を死滅させる。また残さ等は速やかに除去する。



写真1 葉での黄化、えそ症状



写真2 ミカンキイロアザミウマ成虫

